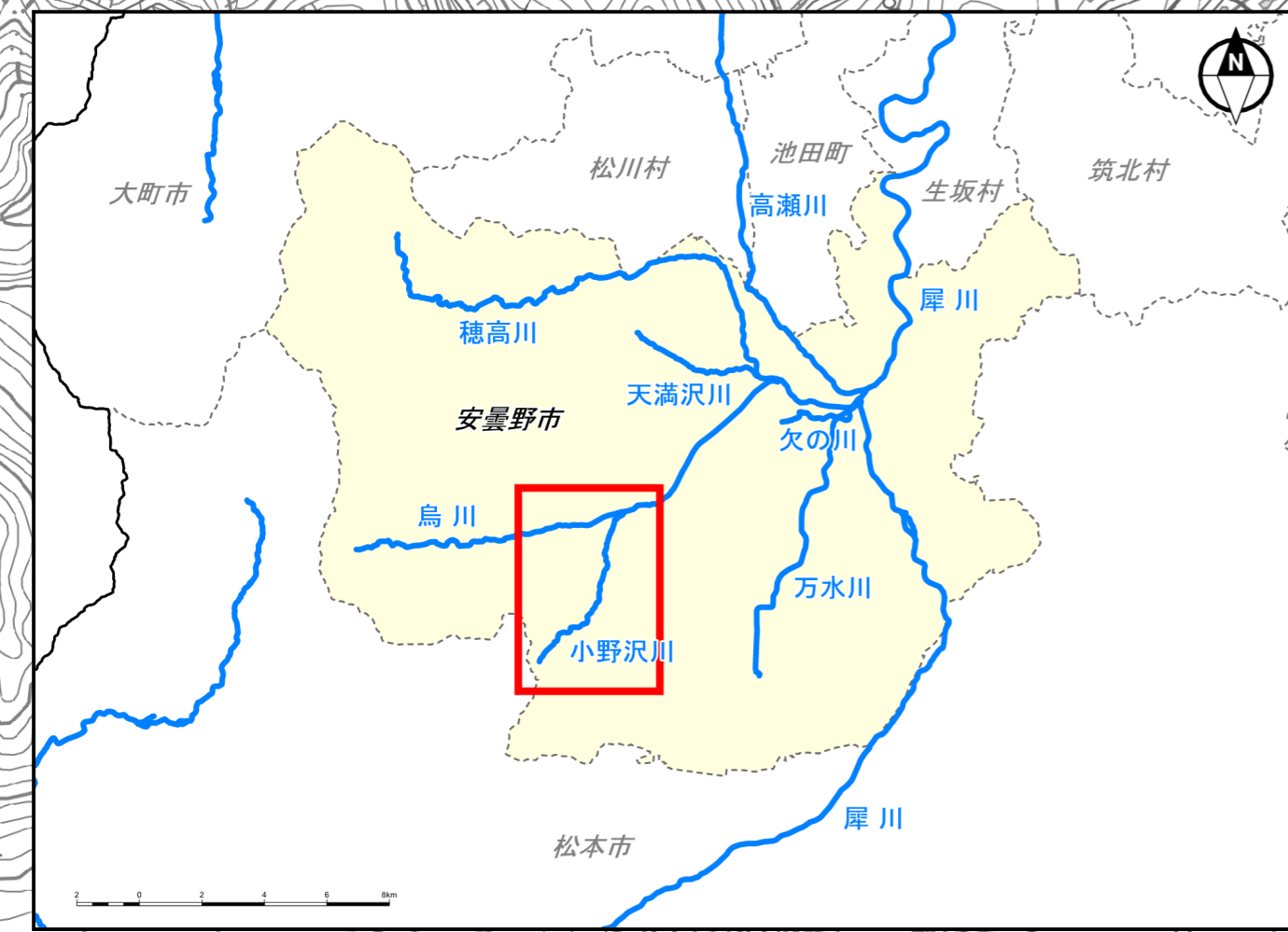


信濃川水系小野沢川 洪水浸水想定区域図(想定最大規模降雨)



信濃川水系小野沢川 洪水浸水想定区域図(想定最大規模降雨)

1 説明文
(1) この図は信濃川水系小野沢川の県管理区間について、浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。
(2) この洪水浸水想定区域図は、指定時点の小野沢川の河道の整備状況を勘案して、想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水により小野沢川が氾濫した場合に想定される浸水の状況を、シミュレーションにより求めたものです。
(3) なお、このシミュレーションの実施にあたっては、支派川の氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨、内水による氾濫等を考慮していませんので、この浸水想定区域図に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際と異なる場合があります。

2 基本事項等
(1) 作成主体 長野県
(2) 指定年月日 令和4年3月29日
(3) 指定の根拠法令 水防法(昭和24年法律第193号)第14条第2項
(4) 対象となる河川 信濃川水系小野沢川
(実施区間)
安曇野市堀金鳥川(小野沢川上流端)から安曇野市堀金鳥川(鳥川合流点)まで
(5) 指定の前提となる降雨 小野沢川流域全体に24時間で813mmの降雨を想定
(6) 関係市町村 安曇野市
(7) その他の計算条件等
この図は「小規模河川の氾濫推定図作成の手引き」に示された、「簡易的な水害リスク情報(LPデータの活用)の作成手法」により作成したものです。この手法は、LPデータより作成した河道・堤内地横断面データを活用した1次元不等流計算水位により得られた洪水水位より、浸水範囲を整理する手法です。そのため、洪水浸水想定区域図の作成に一般に用いられている1次元不等流・2次元不定流計算に比べ簡易な計算に基づく手法での検討であり、洪水浸水想定区域図に比べ、浸水深・範囲の精度が相対的に低い結果となっています。

凡例
— 概略浸水範囲
— 浸水深1m範囲
— 浸水深3m範囲
— 浸水想定区域の指定の対象となる河川
- - - 市町村界

